



アーチェリー部とレスリング部：部活動について

新型コロナウイルス感染症のため1年延期された東京オリンピック・パラリンピックは、今月23日にオリンピック、8月24日にパラリンピックの開会式が行われる予定です。多くの種目で日本人選手の活躍が期待されますが、その中には柔道や体操と並んで日本の「お家芸」の一つと言われるレスリングがあります。また、アーチェリーは最近のオリンピックで日本人メダリストが現れるなど、力をつけている競技の一つです。本校には、県内でも数少ないアーチェリー部とレスリング部があります。

アーチェリー部は、昭和55年の「栃の葉国体」で旧馬頭町がアーチェリー競技の会場に決まり、補助員の要請を受けたことから始まりました。アーチェリーを理解しようと同53年に同好会として発足、同54年部に昇格して本格的な活動と強化を開始し、栃の葉国体には選手を派遣するまでになりました。そして、男子個人4位の成績を納めたのです。その他、関東大会や全国大会における団体及び個人優勝をはじめとして、全米選手権男子個人優勝2回（同59年角田信一選手・同61年秋田和則選手）など輝かしい実績を残しています。令和4年の「いちご一会とちぎ国体」はお隣的那須烏山市が会場になり、本校生は補助員としてお手伝いをする事になっています。

レスリング部は、昭和59年に同好会として発足しました。当時は屋内の練習場が確保できず、グラウンドで練習を繰り返していたそうです。同60年に女子部が結成され、同61年部に昇格しました。この年、女子部主将大金孝子選手がベルギーで開かれた世界女子レスリングフェスティバルで銀メダルを獲得しました。吉田沙保里選手の活躍よりも遙か前、女子レスリングの黎明期に本校生が活躍をしたのです。その後女子部は部員不足からなくなってしまいましたが、代わって男子部の活躍が始まりました。平成2年には悲願のインターハイ出場を成し遂げました。



野球部は、昭和26年に発足した、本校で長い歴史を持つ部の一つでした。「でした」と過去形で書くのは、令和元年的那須・さくら清修・益子芳星・馬頭の4校合同チームで夏の大会に出場したのを最後に廃部となってしまったからです。野球部以外にも、時代の移り変わりや学校の小規模化のために、かつては存在し、今はなくなっている部活動がいくつかあります。部活動に取り組んでいる皆さんには、是非3年間継続してほしいと思っています。益々の活躍を期待します。

【いちご一会とちぎ国体アーチェリー競技リハーサル大会の様子】